

の神経内科・認知神経科学分野の Amiabha Ghosh 先生、筑波大学医学部精神科(現・教授)の新井哲明先生に、アジアと欧米の分子生物学的な違いなどについて最新の知見が紹介されました。

神経画像のセッションでは、John O'Brian 教授の座長のもと、放射線医学総合研究所・分子イメージングセンターの樋口真人先生、宮崎大学医学部放射線科学分野の平井俊範教授、Alan Thomas 教授により、Positron emission tomography などによる分子イメージングやMRIによる脳内鉄画像化といった最新技術と疾患応用の可能性について、ご講演をいただきました。

本国際シンポジウムでは、国内外から六〇〇名を超える参加者があり、特にアジア諸国を中心に十三カ国と地域から若手研究者の参加があり、全体を通して非常に活発な議論が展開されました。本シンポジウムは熊本大学・生命医学科学研究部のご支援により開催されました。肥後医育振興会からも多大なご支援をいただきました。諸先生方には運営のみならずご講演、ご指導を賜りまして、誠にありがとうございました。

**平成二十七年熊大病院群卒
後臨床研修プログラム研修医
育成報告**

熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター長
向山 政志

平素より熊本大学医学部附属病院群卒後臨床研修プログラムの臨床研修医の指導・育成にご協力頂き、お世話になっております。

平成二十七年度は、ついに十二年目となった臨床研修制度のもとで、医科一年次三九名、二年次五四名、歯科七名と丁度一〇〇名の研修医が当センターに所属して研修を行いました。無事に六一名が研修終了し、多くの関連施設の先生方のご指導・ご助力の賜であり、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、昨年から今年にかけての大きな話題は卒後研修制度の大きな変換といえる「新専門医制度」であったことは間違いないと思われまます。一年目の研修医、在学中の医学生を全て対象予定とするシステム変革ですが、当初は整備基準でもそろっておらず、大学病院としても具体的な対応策が見えてこない状況でした。その後、年度内に新プログラムをまとめるために、専門医機構の基準に沿って足早に準備を進めることになりました。今となつては結果的に延期・見直しということになったわけですが、一時は現実視していた研修医達にとって大きな影響があったのは事実です。

また、総合診療専門医が新たな基本領域としてクローズアップされ、学生と研修医の間で関心高まったのも同時期です。当院でも研修プログラムに総合診療・地域医療特化コースを設け、早速一年次研修医が研修を開始しております。ご覧に

なった方もおられるかもしれませんが、昨年末NHK総合のTV番組「ドクターG」に当院の研修医が出演し、総合診療医への抱負を語ったことは象徴的な出来事でした。総合診療実践学講座を通じて地域中核病院で研修を行う、という大学と地域が連携した医師育成が可能となり、またひとつ大学研修に幅ができたことになりました。これも熊本県、大学病院、関連施設の皆様方のご尽力によるものと御礼申し上げます。今後とも公益財団法人肥後医育振興会のご支援、ご指導の程をよろしくお願い申し上げます。

**第十五回熊本大学医学部医学科
医学教育ワークショップを
開催して**

熊本大学医学部医学科長 安東由喜雄

本学医学部医学科によるFDワークショップは、二〇〇〇年に第一回が開催されて以来、昨年度で第十五回を迎えました。第一回のワークショップは市内のホテルで二日間行われ、尾島昭次医学教育学会会長(当時)、畑尾正彦福会長(当時)、倉本毅高知医科大教授をタスクフォースとしてお迎えし、新しいスタイルの医学教育の在り方を学びました。耳慣れない専門用語に大変戸惑いながらも、ノーネクタイですべての参加者を「……さん」と呼び合う職位の垣根を取り払ったスタイルのやり方に医学教育の新しいあり方の息吹を感じ、大

変新鮮な気分を味わったものでした。

このようなワークショップが開かれるようになった背景には、二十年ほど前から全国的に始まった医学教育改革のウエーブがあります。従来、わが国の医学教育は各大学の独自性に任されてきたましたが、近年の生命科学の発展や臨床医学の進歩、医学、医療を取り巻く環境の大きな変化に対応するためには、全国共通の医学教育を行う必要があるという理念が広く受け入れられるようになり、平成十三年に医学教育モデル・コアカリキュラムが制定されました。このカリキュラムでは、医学部で習得すべき学習内容の三分の二程度をコア化(標準化)し、従来の学問体系系別ではなく、統合型(臓器・系統別)カリキュラムとしたことが大きな特徴でした。そこでこのような新たな教育体制に対応するため、チュートリアル教育やPBL (problem Based Learning) などの新しい教育手法が導入されてきました。これに伴い、新しい教育カリキュラムや教育手法を導入するために、医学科教員の教育能力の向上を目標として、全国的にFDワークショップが開催される運びとなりました。

更に悩ましい問題が生じてきたのは、アメリカの医師国家試験にあたるECFMGの受験資格が、医学教育の国際認証を受けた大学の卒業生にのみ与えられるとする取り決めがなされ、二〇二三年以降これが適用されるという問題です。全国医学部長・病院長会議では、全会一致